

事業計画書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

特定非営利活動法人隠岐しぜんむら

1 事業実施の方針

地域に密着した自然を通じた諸活動を行うことで、最終的に地域資源である自然も保全されるための活動を目指します。

① 自然環境保全事業

観光関係者、環境省、ジオパークなどが隠岐への観光客誘致活動の盛り上がりを見せ始めている背景の中、活用と保全のバランスとして重要な地域資源である自然環境や動植物をどのように保全していくかの計画をしっかりと整えていくことが最重要な課題となっております。そのためには、その現状を把握するための十分な調査が必須であり、その結果から保全すべき個体及びエリアの洗い出ししていく作業の担い手として当団体は活動していく計画です。環境省、ジオパーク推進機構、各野生生物研究所、地元行政などとの連携を密にしなが、課題の提案を積極的に行っていく必要があると考えております。具体的取り組みとして、次の5項目を今年度の重点実施計画としております。

- (1) 渡りをする鳥類の中継地としての鳥相の調査として海士町金光寺山を中心に実施します。
- (2) セイタカアワダチソウやオオキンケイギクなどの外来種植物の駆除活動を実施。また、駆除した植物を活用した染め物体験などに地域住民を巻き込むことで実施することで啓発活動にもつなげていきます。
- (2) 地域自然環境の保全を目的として、環境省自然環境保全地域（自然共生サイト）の認定地を目指します。その第一歩の目標として当団体の拠点がある海士町金光寺山を自然体験のフィールドとして有効活用することにより、地域住民や海士町行政の理解と協力を取り付けられるように年間を通して自然観察や体験会、プレパークなどの企画イベントを複数回実施します。
- (3) 地域の自然環境を題材に取り上げたSDGsハンドブックを制作・発行することにより、今海士町の自然環境が置かれている現状と課題を住民に伝える活動を行います。
- (5) 環境省と協働することで隠岐海域の無人島に侵入しているドブネズミの駆除対策を強化し、無人島で繁殖する海洋性鳥類の保全活動を実施します。

② エコツーリズム事業

新型コロナウイルスの影響は継続していますが、隠岐4島の観光を統括していた隠岐観光協会と合併し、観光地域づくりを行う一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構、各島の観光協会、旅行業者と協働し、お客様のニーズの多様性に合わせたモニターツアー等を実施することでアフターコロナを見据えた観光事業の内容充実をはかります。当法人は、昨年度に無人島での新たなツアーを構築し隠岐諸島内では実施されていない新たなツアーを構築しました。今年度は、前年度までに構築したツアーのガイドの質の向上に引き続きエコツアーの新メニューの構築を行っていく予定です。また、サステイナブルツーリズムを意識し、ツアー行程に漂着ごみ回収と地域への漂着ごみの影響を知る学習要素を取り入れて

いきます。コロナ禍の中、職員の研修強化による人材育成や少人数制でコロナウイルスの感染予防対策を行ったうえでツアーを実施し、アフターコロナで隠岐への来島者が増加しても対応できるように組織体制を整えます。そして、隠岐諸島内の他事業者と連携して、多様なニーズに合わせたツアーを実施する盤石な体制を構築することに努める年としていく計画です。

③ 環境教育事業

幼児期から高校生までの子どもに環境教育を推進していくために以下の4つの活動を行っていきます。

(1) 自然保育の推進

未就学児向け自然体験活動「お山の教室」は平成26年の立ち上げから10年目となり、地域に根付いた取り組みとして定着したといえます。今後も活動が安定的に継続していくための財源確保に向けて、国の認可制度を視野に入れながら海士町との協議を積み上げている状況です。また、「お山の教室」の活動の発展として、小学生にも対象を広げたプレーパーク活動を並行して実施しており、昨年度は島前3島の小中学校にチラシを配り参加を呼びかけて実施しました。今年度はその実績をもとに海士町教育委員会の協力を得て自然保育・自然遊びの意義を多くの島民に伝えていく活動を行っていきます。

また、昨年度は西ノ島町のみた保育園の遠足や日常の保育活動に自然体験指導者として参加し、山歩きをしながら自然観察や草花遊びをするなどの活動を行いました。公立保育園と連携する機会が新たにできたので、今年度も継続的に保育活動に参加し、自然保育を推進していきます。

(2) 学校との連携

島前3島の小中学校の授業において、島根県の「県民参加の森づくり事業（みーもスクール）」を平成27年度（2015年）より活用し、島前・海士町内の森林を通して人と自然環境の関係性を伝えていきます。また、大地の成り立ち、独自の生態系、人の営みをジオパークの出前授業で学ぶことで、他地域と異なっている地域の個性について学習し、郷土愛が育まれるように努めていきます。

(3) 自然体験活動

隠岐の豊かな自然環境を活用し、自然体験活動を通して自然に親しみ、その不思議さや多様な生命に触れながら学習する活動を行っていきます。

昨年度は、環境省の農山漁村自然体験事業として島前3島から参加者を募り一泊二日の自然体験活動を行いました。海遊びや農作物収穫などを体験しながら海洋ゴミ問題や森林荒廃などの環境学習へと発展させていきました。体験を通して体感的に学ぶ活動を引き続き行っていきます。

(4) 高校生の自主的な環境保全活動サークルの支援

昨年度、当団体主催の外来種駆除活動に参加した島前高校生が発展的な活動として自主的な環境保全グループを結成し、海士町産業文化祭で外来種セイタカアワダチソウを活用した染め物体験やお茶の試飲などの出店を行いました。

今年度は、SDGsの理念を据えた教育活動として、そのグループを支援し、協働して環境保全活動を行うことで地域の課題解決、そして社会貢献活動にも発展させていきます。

④ 都市農村交流事業

島外者と島民との交流の場として、海士町の研修施設である都市農村交流センターの指定管理の継続をおこないます。ただし、来島者への誘客アプローチとしては、新型コロナウイルスの流行状況を鑑みて島外からの来島者を受け入れます。

島内在住者への施設利用促進としては、未就学児対象の森のようちえん開催による地域住民の交流の場や、地元の小中学生・高校生の自然体験等、環境教育及びジオパーク学習

の学びのための施設として積極的な活用策を計画しています。

ちなみに、来島者となりますが地域資源発掘のために、少人数の鳥類・陸産貝類・昆虫類などの研究者および調査員の受け入れを実施します。

⑤ 地域住民生活支援事業

各学校等の記念写真撮影、地域生活環境対策として野良猫避妊手術支援活動を行います。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施予定日時 (B)当該事業の 実施予定場所 (C)従事者の 予定人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)予定人数	収支予算書 の事業費の 金額(単位: 千円)
自然環境保全事業	・地域の野生生物調査活動 ・海岸の保全活動 ・公共事業における助言、調査	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)4人	(D)隠岐郡の 住民 (E)5,000人	2,500
エコツアーリズム事業	・エコツアーコースの構築 ・エコツアーガイドの実施 ・エコツアーガイドの育成 ・地域の観光資源開拓 ・地域の観光推進への助言、補助	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)4人	(D)隠岐郡内の 観光関係者や商店等、来島者 (E)1,000人	4,500
環境教育事業	・地域未就学児自然体験 ・島外小学生対象自然学校開催 ・島内小中高校環境教育講師 ・学生、企業、公務員等社会人対象自然環境研修の講師及び助言、補助	(A)通年 (B)隠岐郡内 (C)12人	(D)全国 (E)1,000人	35,000
都市農村交流事業	・島内者と島外者の交流活動の企画立案	(A)通年 (B)隠岐郡海士町 (C)4人	(D)全国から 海士町を訪れる旅行者 (E)800人	1,800
地域住民生活支援事業	・地域自然災害時の支援活動	(A)学校記念写真撮影、野良猫対策支援活動 (B)隠岐郡海士町 (C)4人	(D)海士町内 住民 (E)10人	10